

市史だより

# がちまやあ Ga či-maja

第17号・2009年5月29日(金)発行  
年3回 (5・9・1月発行)

編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係  
〒901-2710 宜野湾市野嵩1-1-2

問い合わせ・情報提供先



(098) 893-4430

Fax (098) 893-4434

[Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp](mailto:Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp)



上の写真は、伊佐にある「ワ たけたう原」と刻まれた印部土手石（しるべどていし）、通称「ハル石」と呼ばれる物です。同様な石を宜野湾では、「シルビグワー」「ルリグワー」「ドゥーティグワー」（土手の意）とも呼ばれています。

さて、このハル石は、1735～50（乾隆2～15）年に首里王府が乾隆大御支配（けんりゅうのおおごしはい）という検地（土地測量）を行った際に、測量の基準点として用いられました。今で言うと図根点に相当しますが、ハル石自体は260年余り前からの歴史ある石なのです。

ハル石は長さ平均50～60センチ、幅が30センチ前後で、その石材は主に「ニービヌフニ」「ニービ」という粒子の粗い砂岩の石が使われています。そして、表面には測量の目印となる「い、ろ、は」の内の一文字と、その設置場所の名前が刻まれています。このハル石からは、首里王府時代の測量技術や、当時の地名を垣間見ることができます。

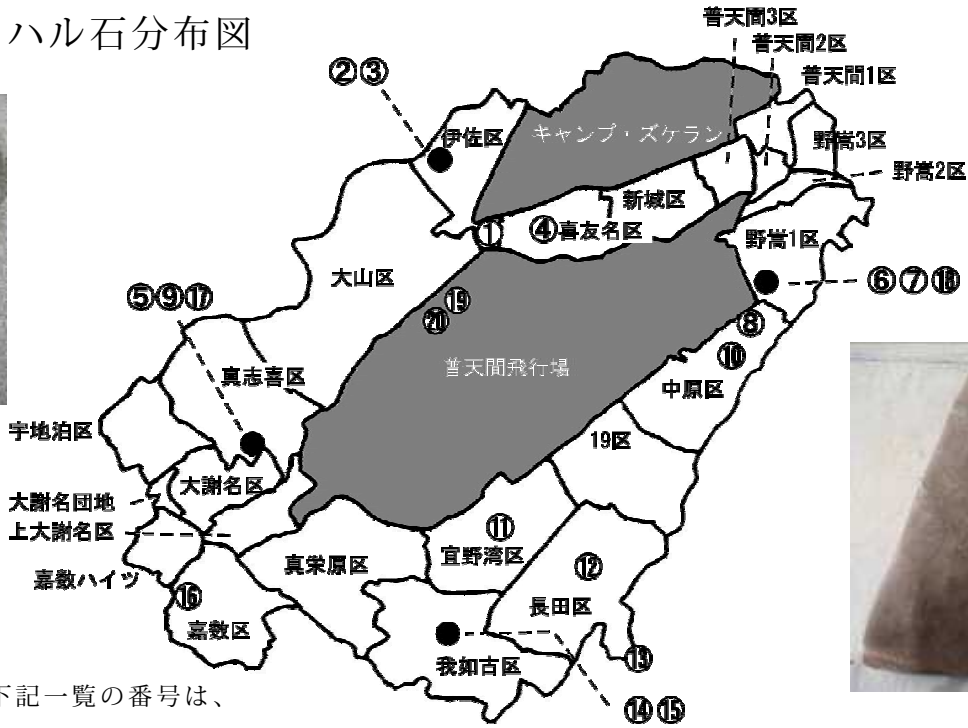
写真の伊佐のハル石は、盛り上がった土手の上に置かれ、しかも元の位置から移動せずに保存状態も良いことから、1991（平成3）年に市の史跡として指定されました。



# 宜野湾市内のハル石は、どんな状況なの？

文化課市史編集係では、今年3月末から5月にかけて、市内のハル石の確認調査を行いました。調査は、1980年代に実施されましたが、あれから30年近い年月が経過していることから、当時のハル石の現状確認と、未確認のハル石調査も合わせて行いました。その結果、あいにく30年前には確認されていた1基が消失していましたが、未確認分の5基と合わせて、計19基のハル石が確認できました。80年代と現存の確認分を分布図と一覧にまとめてみました。

## 宜野湾市・ハル石分布図



\* 地図内の番号と下記一覧の番号は、対応しています。

## 宜野湾市内ハル石一覧(確認分)

No.	印部石名	所在地	保管先
1	ワ たけたう原	伊 佐	現 地
2	夕 いさ原	伊 佐	公民館
3	ら 山川原	伊 佐	公民館
4	き きとも奈原	喜友名	個人宅
5	ワ いさ嶽原	喜友名	市立博物館
6	ヨ ふてま原	普天間	文化課
7	く □ては奈原	野 嵩	文化課
8	井 いしみ祢原	上 原	現 地
9	ア 曾ける原	赤 道	市立博物館
10	於 曾ける原	赤 道	個人宅
11	さ □上原	宜野湾	公民館
12	子 (於加尔)た原	長 田	個人宅
13	ひ 山(内)原	志真志	消 失
14	を ひやた原	我如古	個人宅
15	□ ひやた原	我如古	個人宅
16	祢 しも原	嘉 数	個人宅
17	セ 官川原	真志喜	市立博物館
18	ホ □	宇地泊	文化課
19	み もしろ原	大 山	基地内
20	ふ もしろ原	大 山	基地内

凡例：□…解読不可、( )…読めそうな文字

現存するハル石は、教育委員会や公民館、個人宅などに大切に保管されていました。米軍基地内のハル石は、2002～03（平成14～15）年に沖縄県埋蔵文化財センターが実施した文化財の範囲確認調査の際に発見されたもので、今後とも基地内での新たな発見が期待されます。



拓本取りの様子。調査では、ハル石の寸法や材質・刻銘された文字・石の向き、拓本取り・言い伝えなどの確認を行いました。調査にご協力くださいました皆さま、ありがとうございました！





# ハル石からは、どんな歴史がわかるの？



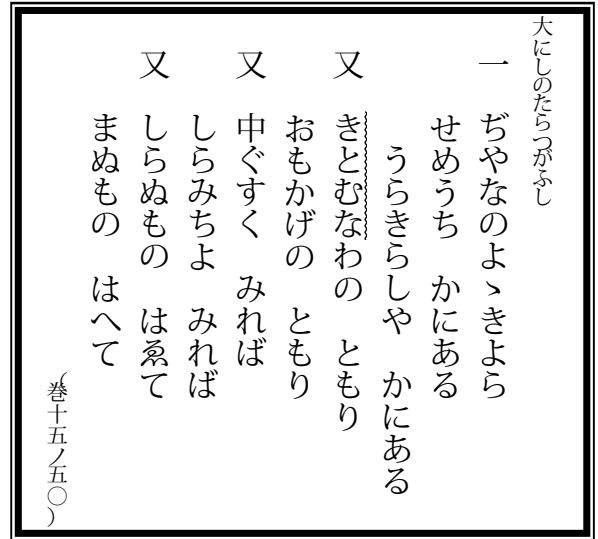
市内に現存するハル石の中には、歴史的にとっても興味深いものがあります。ここでは『宜野湾市史 4 巻』に収録されている古文書と、ハル石に刻まれた地名から見える歴史を見てみましょう。

## ◆ 「き きとも奈原」と『おもろさうし』

まずは喜友名にある「きとも奈原」の刻字は、沖縄最古の歌謡集である『おもろさうし』に登場します。『おもろさうし』は、乾隆期の検地よりも約 200 年前に作られ、古琉球の歴史・言語・生活を知る上で貴重な資料です。

巻十五ノ五〇「大にしのたらつがふし」の中に「きとむなわの…」という一節があり、これが喜友名を指していると考えられます。この歌は、謝名のおよきよら（神女）が喜友名に来て中城の嶽をみつめ、神の天降りをも、胸をしめつけられる思いで待ち望んでいる様子を歌ったものです（詳しくは『宜野湾市史 4 巻』をご覧ください！）。

喜友名に相当する地名が古琉球時代からこの地に存在し、喜友名の語源になったと考えることができます。



## ◆ 「を ひやた原」と『年貢帳』

次に、我如古にある「を ひやた原」銘のハル石に刻まれた「ひやた原」というハル名も『年貢帳』に記述されています。

ひやた原という地名は現在も使われており、我如古の南西部に位置します。『年貢帳』とは、首里王府時代に作られた古文書で、場所・小作料と思われる数値・関係者の屋号（家の名）が



「年貢帳」複写

記され、地方役人が執務上使用していたと考えられます。『年貢帳』に書かれている項目を地名ごとに整理すると、ひやた原には 15 の屋号が確認でき、小作料は合計で約 1 斗 5 升到のぼります。土地の状況や、その地に携わる人びとの生活の様子がうかがえる資料といえます。



「を ひやた原」銘のハル石

## ◆ 終わりに

ハル石は古文書と照らし合わせることで、首里王府時代の様子を垣間見ることのできる貴重な資料といえます。

これからも、皆さまからのハル石の目撃情報をお待ちしております！





# 歩いてみよう！ 戦後のはじまり② ~野嵩收容所跡~

今回は野嵩收容所跡を紹介します♪

(※①は前号を見て下さい)

收容所は、戦争で保護された人びとが入られた場所です。

宜野湾では、野嵩だけが戦禍をまぬがれました。

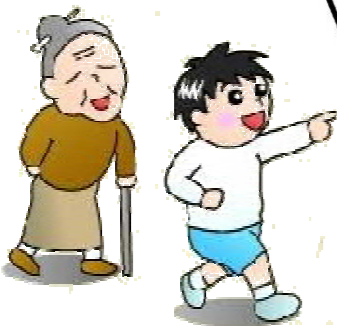
家屋敷と緑が残る野嵩收容所で、人びとの戦後は、はじまりました。

<凡例>

■ 收容所の施設

● 現在の施設

※各施設の設置は、時期によって異なります。



場所はこちら



## ハウスナンバー32



ハウスナンバーは收容所を管理する米軍がつけた番号で、住所のような役割をしました。  
ヒンプンの中心をよく見ると、「32」の数字が見えます。



1つの屋敷に多くの家族が詰めこまれてたよ

## 配給所



配給所では、食べ物や衣服が渡されました。米・メリケン粉・ジャガイモなどです。  
けれど十分な量ではなく、お腹を空かせた時が多かったようです。



配給は週に1回で、家族の数で量が決まったよ

## クシヌカー



この湧き水は、收容所に入れられた人びとにとって貴重な生活用水でした。

戦前の野嵩の人口は850人ほどでしたが、收容所になってからは、1万人近くの人びとがひしめきあっていました。そのため集落内の水だけでは足りなくなり、水を求めてさまよう人びとが大勢いたといいます。

※クシヌカーについては、次ページのコラムも見てください♪



みんな容器を持ち、夜明け前には並んでいたよ

## MP事務所



MPは米軍の警察の事です。收容所の施設はすべて、戦前からあった屋敷をそのまま使っていました。

事務所には最初、米兵が大勢いましたが、後には2名ほどが滞在していたようです。



米兵は夕方になると、銃で空缶を撃って遊んでいたよ



# 野嵩収容所のランドリー

## ■ 野嵩 - 米軍ランドリーの設立 -

沖縄戦のさなか、米軍は日本軍と沖縄住民との分離を図るべく、進撃と同時に各地に民間人収容所を設置し、投降に応じた住民を次々と収容所に送り込みました。宜野湾村（当時）では 1945（昭和 20）年 4 月上旬、野嵩にいち早く収容所が設置され、収容された多くの村民がこの地で「戦後のはじまり」を刻みました。

野嵩は沖縄戦を通じ、人びとの出入りが絶えず激しかった収容所でしたが、わずかながらの人びとは設置当初から長期間留まることができました。そして米軍は、野嵩に残留させた人びとを「安上がりな産業」として動員しつつ、米軍専用のランドリーの設立・維持という計画を展開していきます。ちなみに、ランドリーの主要な現場となったのがクシヌカーでした。

## ■ 大量の衣類



野嵩のランドリーについては、米軍の 45 年 5 月の月間報告書にその断片が記録されています（『沖縄戦後初期占領資料』第 10 巻 pp.59-61）。

それによると、設置当初の野嵩のランドリーには、米軍の野戦病院から負傷兵に使われたタオル、毛布、野戦服などが定期的に送られ、洗濯作業に従事した 19 人の女性と 6 人の男性は一日におよそ 300 もの衣類を取扱い、5 月以降ともなると一日に取扱う衣類も 500 から 600 にまで増えたと記録されています。ランドリーで働いた松川吉信さんによると、主に女性は洗濯作業、男性は「釜焚き」と呼ばれる消毒作業をそれぞれ担当したと言います（『宜野湾市史』第 8 巻 pp.603-604）。



それら大量の衣類はランドリーに届けられた 24 時間後に仕上げなければなりませんでした。この年の 5 月の湿気の多い天候と長く降り続いた雨によって、衣類を乾燥させる工程に遅れが生じ、人びとは休日返上で長時間にわたり作業に取り組まなければなりませんでした。それはなにより「他の指令に支障を来たさないため」でした。

## ■ 米軍の評価

このような難局にありながらも、米軍の評価は高いものでした。報告書によると、通常の配給を除く「特別の報酬」が野嵩に届けられ、洗濯班長だった当時 20 歳のハワイ帰りの女性については「英語・日本語・さらには沖縄方言を話すことができ」、「並外れて優秀」、「忠実」、「真面目」、「知能が高く」、「計画の成功に実質的に寄与してくれた」などと記録されています。

米軍にとって、野嵩収容所のランドリーは「民間人労務者が部隊の有益のため、どのように活用されているかを示す格好の例」でした。

ランドリーは野嵩がコザ地区に編入される 45 年 10 月頃まで稼動したそうです。



洗濯する女性たち 野嵩クシヌカー？(1945 年)  
沖縄県公文書館所蔵

# 戦前の宜野湾の商業



戦前の宜野湾では、県内の他市町村と同様、サトウキビ栽培を基幹産業として、農業や畜産業で生計をたてるものが主でした。しかし、当時の宜野湾は交通の要所で、中頭郡役所も置かれ、また普天満宮などもあり、そのような場所では商業も発達していました。今回は、そんな戦前の宜野湾の商業をとりあげます。

## 宜野湾の商業地図

※古地名調査において、現段階で得られた情報を元に作成。



### ● スバヤー (ソバ屋)

今も昔も沖縄の外食の王道であったようです。普天間・宜野湾・真栄原などにあり、いずれも交通の便がよく、市場や役所など人が集まる場所でした。ソバ屋のある字に行った際には、ソバ屋に立ち寄るのが楽しみだったそうです。



### ▲ チーチーヤー (牛乳屋)

牛乳の生産・販売をする職業で、我如古や神山にありました。自宅で乳牛を飼育し、瓶詰めして配達していたようです。当時、牛乳は貴重で、現在のように毎日飲めるものではなく、滋養強壮などの目的で飲まれていたようです。



### ★ チミクマサー (蹄鉄屋)

蹄鉄とは馬の蹄を保護する、人間でいう靴のようなものです。蹄鉄屋は、馬に蹄鉄を装着する職業です。戦前の主要な運送機関は荷馬車で、負担がかかる馬の足には、蹄鉄は必要不可欠でした。真栄原は、那覇から現在の沖縄市・うるま市辺りへの中継地点で、蹄鉄屋は真栄原十字路の一角で開業していました。



### ■ ユーフルヤー (風呂屋)

普天間に2カ所と、牧港にありました。当時、家庭風呂はなく、共同井戸での水浴びや、自宅で鍋に沸かした湯で入るのが一般的でした。風呂屋に行くのは正月など年に数回で、楽しみだったようです。



今回は4つの商店・職業を紹介しましたが、他にもダンパチャー(理髪店)、豆腐屋、客馬車、お菓子屋、薬屋、肉屋、石大工、肉の行商、ウワーフグヤー(豚の去勢をする人)など、多くの商店や職業がありました。これらの商業には、今と変わらないものもあれば、聞きなれないものもあります。商業から、当時の宜野湾の生活を思い描くのも面白いですね。







# 新刊案内



戦後の宜野湾の様子を  
わかりやすくまとめた、  
歴史と現在が学べる1冊！



『宜野湾市史』  
第8巻 資料編7 戦後資料編I  
戦後初期の宜野湾 解説編



定価  
700円  
(税込)

## ◆ 慰霊の日 企画展 ◆

### 宜野湾 戦後のはじまり

\* 宜野湾の戦後初期を見る

2009年 6 / 17(水) ~ 7 / 12(日)

◆ 宜野湾市立博物館

◆ 午前9時~午後5時  
(入館は4時半まで)

◆ 休館日

毎週火曜日・慰霊の日(23日)・24日

◆ お問い合わせ

Tel (098)893-4430 (文化課)

Tel (098)870-9317 (市立博物館)

入場  
無料



## ◆ 企画展 関連イベント ◆

歴史の証言

### いくさゆー 宜野湾の戦世を語る

\* 戦中・戦後の生活の

体験談を語る

■ 日 時： 6 / 27日(土)

午後2時~4時

■ 場 所： 宜野湾市立博物館

■ 参加料： 無料



## ◆ 企画展 関連イベント ◆

### 戦後のはじまりを歩く

~野嵩収容所~

\* 戦後生活の出発点、

野嵩収容所跡を歩く

■ 日 時： 7 / 5(日)

午前10時~午後12時

■ 集合場所： 宜野湾市民会館ロビー

■ 参加料： 100円 (保険料)

■ 定 員： 20人

注) 事前のお申込が必要です！

■ 受付期間： 6 / 10(水) ~ 6 / 25(木)  
(定員に達し次第、終了)

■ 申込先： 文化課

Tel (098) 893-4430



## ↓↓お問い合わせ先↓↓

宜野湾市教育委員会 文化課

宜野湾市野嵩1丁目1番2号  
(宜野湾市民会館2階)

Tel (098) 893 - 4430

Fax (098) 893 - 4434

